

# ひかりのこ

6月園便り

聖ミエル幼稚園  
2017年5月24日

## 月主題：不思議

### 『お世話をする喜び』

5月も後半になり、年少さんの午後保育も始まり、いよいよ通常の園生活がスタートしました。最近、年長さんのお友達の優しさに心が温かくなることがよくあります。

朝、幼稚園バスが到着すると、年長さん、年中さんは、年少さんの手を引いて、幼稚園の玄関まで連れてきてくれます。いつもはとても元気で動きの速いY君。この日は、年少さんの中でも小さい男の子とペアで降りてきました。Y君。そっと手を握り、何度も何度も年少さんを気遣いながら、体を中かがみにしながら歩いてきます。Y君にこんなお兄さんらしい優しい一面があったのだ、と朝からうれしくなりました。年中さんのI君もとても元気がいい男の子ですが、別の年少さんと手をつなぎ、ゆっくりゆっくり歩いてくれています。他のお友達もみんなゆっくり優しい表情で年少さんを守ってくれます。やっぱりミカエルの子は、自分が優しくしてもらったことを覚えているのですね。毎年こんな素敵な光景が見られます。

朝の自由遊びが始まって、じゅうたん敷きのスペースの前には上靴がごちゃごちゃになって置かれることが多いのですが、あるクラスの年長のW君。みんなの靴をきれいに並べ、自分もじゅうたんに上がるとき、きちんと靴の先を外側に向けて並べているではありませんか。いつも静かなW君。こんな気遣いが育っていたのだとうれしくなりました。

お昼ご飯が終わり外遊び。園長の私は、外の鉢花にお水をやるため、玄関の外にあった大きなじょうろを持って、トイレにある水飲み場の水を汲みに中に入りました。ちょっとの間なので、外靴も脱いだそのままにし、じょうろに一杯水を汲んで靴を履こうとして、「あ、靴が中向きになっている。どうやって履こうかな。」と困っていると、そこに居合わせた、年長のHちゃん。「園長先生、どうぞ。」と、靴を外向きに並べなおしてくれました。これにも感激！私の状況をよく見て、気持ちを汲んで動いてくれたのです。

でも、この年長さんが年少さんの時は、結構大変でした。あちこち動き回る子もいて、年少さんのクラスがある日は、先生方は保育が終わるとへとへとになっていたものです。その子たちが、こんなに素敵な子どもたちに成長するなんて。

子どもたちは一人一人がばらばらに成長するものではありません。お友達といろいろななかかわりを持ちながら成長するのです。年少さんにとっては、年中長さんは頼れる憧れの存在ですが、年中長さんにとっても、年少さんの存在があるからこそ、このように成長できるのです。

これからも、こんな素敵な光景を見られる、この職場に私も感謝しながら、先生方と一緒に子どもたちを見守っていきたいと思います。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「帯広双葉幼稚園のこと」

私たちの学校法人は道内に5つの幼稚園があります。その一つは帯広にありますが、実はもう一つ、帯広市内に聖公会と深い関わりのある幼稚園があります。それが帯広双葉幼稚園です。なんと百年以上前の明治44年に教会付属幼稚園として開園、現在の園舎は95年前に建てられた八角形のドームをもつ魅力的な建物です。当時、聖公会の母体であるイギリス国教会の団体と、帯広市内の有志が相当のお金を出資して、帯広のこどもたちのために建てられたのです。

その園舎がこの度、国の重要文化財指定の答申を受けました。順調に行けば年内にも十勝地方初の重要文化財になるでしょう。ちょうど私が帯広の教会の牧師をしていた4年前、保育は百年の歴史を閉じて閉園となりました。それだけでも大きなニュースとなり、今後のことで私もマスコミの取材を受けたのですが、映像に残るテレビ局のインタビューだけは丁重にお断りしたことを覚えています。

調べてみますと、幼児教育の施設が重要文化財に指定されるのは、国内でも他に3つほどしかありません。中でも双葉幼稚園の場合は、建物だけでなく、遊具や絵本類、楽器など、日本の幼児教育の歴史がそのまま詰まっていて、まるで幼児教育博物館のようです。そして何よりも、この建物に入ると、百年にわたる多くのこどもたち、先生たちのお祈り、成長と幸せを願った保育の息づかいを感じるのです。

やがて一般開放される時が来ると思いますので、帯広に行かれた際は、ぜひお立ち寄りください。

チャプレン 司祭 下澤 昌